学校と経営者の交流活動推進委員会主催

3月17日開催

第12回教育フォーラム
「勉強するのは何のため? 働くってどういうこと?」
これからの時代に大切にすべきものとは何か？

「学校と経営者の交流活動推進委員会」は、働くこと、学ぶことについて考える教育フォーラムを開催した。第1部は木川眞副代表幹事による基調講演、第2部はグループ・ディスカッションが行われ、活発な議論が交わされた。約130人の生徒を含む総勢175人が参加した当日の模様をダイジェストでお届けする。

（役職は開催時）

開会挨拶　ディスカッションでは積極的な対話を

日比谷 武 学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長（富士ゼロックス 顧問）

12回目となる今回の教育フォーラムは、過去最多の中学生の参加数となりました。講師を務める経済同友会の会員も、皆さんとの対話を大変楽しみに準備してきました。

「学校と経営者の交流活動推進委員会」では、約100人の会員が皆さんの学校にも伺って出張授業を通じて対話をしています。第１部の基調講演と質疑応答、その後の第２部のグループ・ディスカッションでは皆さんが中心となって発言をして、学ぶとは、働くとはどういうことかを自ら考えていただきたいと思います。

基調講演　これからの時代に求められる人材像

講師：木川 眞 副代表幹事／人口・労働問題委員会 委員長（ヤマトホールディングス 取締役会長）

少品種大量生産から“お客さま目線”の時代へ

私が皆さんくらいの年頃だった1960年代がどんな時代だったかを整理してみると、いくつかのキーワードが浮かびました。

一つ目は「高度経済成長」。日本の経済成長が圧倒的な勢いで進み、国の経済力を示す当時の指標で米国に次いで２位に入りました。二つ目は「大きいことはいいことだ」です。大きいとか強いということが価値観としてアピールされました。三つ目が「少品種大量生産」。今は多くのメーカーが多種類のものを作っていますが、1960年代はものをたくさん作れば売れて、利益が出る時代でした。最後が「同一の価値観」です。当時もいろいろな考え方を主張する人はいたのですが、大多数はベクトルの方向が大体そろっていました。

現代は状況がまったく変わっています。まず、お客さまのニーズや価値観が多様になっていて、お客さま目線で製品を作っていかないと、ものが売れない時代に変化しています。

さらにデジタル情報・通信手段の進化があります。そして、日本の社会構造の変化として、人口減少と高齢化が挙げられます。こういう時代の流れに応じて個人が磨くべきスキルも当然変わってきますし、企業が求める人材も変わってきます。

多様な人材が混ざり合う時代に求められる五つのもの

もう一つの大きな変化が、グローバル化です。高度経済成長の時代から日本人が海外に出ていくグローバル化は進んできましたが、今は日本国内のグローバル化が進んでいます。言い換えると、ボーダーレス化です。国境や国籍をあまり意識しなくなった現代の新たなキーワードが、「混ざり合う」です。多様な人たちが混ざり合っていく時代には、身に付けるべきもの、大切にしてほしいものも変わってきます。私は以下の五つだと思っています。

一つ目は「世の中を常に好奇心を持って見る目を持つ」こと。好奇心がある人は、ものを見て、これは面白いなという気持ちや疑問を持ちます。

二つ目は「多様な価値観を受け入れ

る柔軟性」です。今はいろいろな考え方があっていいのだと、素直に受け入れることが必要になっています。

三つ目は「ちょっとした変化を敏感に感じ取る感性」です。変化に気付くことはいろいろなことを考える原点となります。周囲の変化、自分の考え方の変化、あるいは時代の変化をつかむ感性を磨くことが大事です。

四つ目は「感じた変化を形にするデザイン力」です。どんなにいいことを考えていても、それを相手に伝えることができなければ、分かってもらえません。

五つ目は「恐れずチャレンジする意欲」です。人はできるだけ失敗したくないし、恥をかきたくないと思うものです。しかし、失敗や恥を恐れて何もしなかったら、何も生み出すことができません。ですから、恐れずにチャレンジすることが大事です。

この五つは、いまの時代だからこそ求められる人材像となります。

失敗を恐れずに挑戦し続けてほしい

この五つ全部に自信があるスーパーマンは、まずいません。しかし、何か一つだけでも自信を持とうと日頃から意識するだけで、その力が研ぎすまされます。これからは、そういった個性を評価する時代になるでしょう。

皆さんに心掛けてほしいことが三つあります。まずは、自分の強みを磨き続けることです。また、チームプレーも大事にしてほしい。いろいろな個性を持つ人が集まって、チームで一緒になれば、そのチームの力は強くなります。そして、グローバル化が進む中ではコミュニケーションがきちんと取れる人でないと、どんなにいいことを考えていても通じません。対話力を身に付けることも大切です。

最後に私の座右の銘を紹介します。それは「為さざるの罪」です。失敗を恐れて何もしないことは、挑戦して失敗するよりはるかに罪深い、ということです。若いうちは、失敗した数だけ成長する。やり直しはいくらでもできる。何もしないで逃げてはダメだという気持ちをぜひ持ってほしいと思います。

質疑応答

Q 自分の強みを磨くことが大切だとおっしゃいましたが、どうやったら自分の強みを見つけられますか。

A ほかの人と比べて強いか弱いかではなく、「自分はこれが強い」「これを強みにしたい」と思うかどうかで、何でも強みにするチャンスがあります。自分の強みが分からないという人でも、好きなものとか、勉強して興味があるものがあるでしょう。そこが入り口になると思います。

Q 「好奇心を持つ」大切さをお話しくださいましたが、どういうジャンルを見ていけばいいのですか。

A ジャンルは特定しない方がいいのではないでしょうか。世の中ではいろいろなことが起きていますし、一人ひとり違うことが良さなので、好奇心を覚えたところが、自分にとって強みを持てる領域かもしれないと考えるといいと思います。

Q 社会の小さな変化に気付くためには、日頃どういったことを意識したらいいでしょうか。

A ともかく周りを見ることです。ぼーっとしていたら、何にも見えません。好奇心を持って世の中を見る目がある人は、小さな変化に気付きます。だから、そんなに難しいことではないと思います。

Q ボーダーレス化による言語の壁をどう考えていますか。

A 言葉の壁は日本においては依然として大きいです。コミュニケーションスキルが大切だと話しましたが、その一つとして語学を意識的に学ぶことも大事です。英語や外国人を怖がらなくなれば、下手でも話せるようになります。そういう人が増えていけば、語学は壁ではなくなると思います。

Q チャレンジをするための決断力を高めるには、どうしたらいいですか。

A これは、自分の努力以外にはないですね。決断するためには、やはり考えること。決断力がないという人は、多分あまり深くものを考えていないのではないでしょうか。考えた末に自分なりに結論が出て、そこでやるかやらないかを決断するので、考えることが大切です。

第12回教育フォーラム
グループ・ディスカッション

第2部として開催されたグループ・ディスカッションでは、参加した生徒たちが7～9人ずつの16グループに分かれて、各グループが講師を務める「学校と経営者の交流活動推進委員会」の委員を囲みさまざまなテーマについて積極的に語り合った。

勉強の方向性や将来の目標について考える貴重な機会に

グループ・ディスカッションでは、各テーブルで担当の講師と生徒同士がそれぞれ自己紹介し、その後活発な意見交換が行われた。

「勉強するのは何のため？　働くってどういうこと？」という大テーマを元に、各講師がそれぞれテーマを設けた。

その内容は、「自分の未来は自分が決める」「世界と日本の君たち」「未来を創造する皆さんへ」「これからの日本社会と働く意義」「充実した人生のために」など。難しく思えるテーマについても、講師たちの分かりやすい説明や巧みなリードによって、生徒たちは積極的に自分の意見を発言していた。

なお、生徒たちとは別に、保護者は1グループ、教員は3グループでディスカッションを進行した。

ディスカッションは休憩を挟んで約2時間で終了した。その後全員が集まっての総括では、各グループの代表者が、「国際社会で生きていくためには英語で自分が考えたことを伝える力が大切」「いろいろな人の意見を聞くことで自分の強みが見つかり、それを活かせる仕事を見つけられると知った」「今の自分と将来の自分をどうつなぐかを話し合った。そのためには、興味のあることをとことん追求すること、今の自分に満足せず磨き続けていくことが重要」「初めて会った人たちとディスカッションするという初めての体験を通じて、自分に自信が持てた」などと、語り合った内容や今回学んだことを発表し、閉会となった。

この日参加した生徒たちにとって、第12回教育フォーラムは、今後の勉強の方向性や将来の目標について考える貴重な機会になったようだ。

参加講師

生徒グループ

石渡 明美
花王
執行役員

海野 忍
NTTコムウェア
取締役相談役

木川 眞
ヤマトホールディングス
取締役会長

北川 太
テクノプロ・ホールディングス
執行役員

栗原 美津枝
日本政策投資銀行
常勤監査役

小林 惠智
ヒューマンサイエンス研究所
理事長

高橋 秀行
ステート・ストリート信託銀行
取締役会長

多田 幸雄
双日総合研究所
相談役

中塚 晃章
ジャトコ
取締役社長兼最高経営責任者

中野 祥三郎
キッコーマン
取締役常務執行役員

◆◆◆ 参加者の感想 ◆◆◆

生徒グループ

●１年先など、近い未来を見るのではなく、10年先という遠い未来を見て、将来への対策を立てていくのが重要だということを知った。次回も参加して、たくさんの経営者の方の話を聞きたいと思った。

●自分の悩み事に対する対策や対処方法を知り、参考になりました。興味をそそるお話がたくさん聞けて、面白かったです。

●いろいろな人たちと会話し、いつもは考えないようなことを考え、意見を言うのは、緊張したけど楽しかった。あっという間に終わって、その後もあと３時間は話し合っていたいと思うほど、胸の高鳴りを感じた。

●基調講演で「自分のできること」をやっていくことで自分の可能性が広がるということを聞き、考えの視野が広がった。「できること」を探すことで将来が見いだせればいいと思った。

●日本や世界の未来を考える機会をいただき、自分に対する興味が湧いた気がします。また、今まで英語が好きだったので英語が極められたらいいなと思っていましたが、英語プラスアルファを考えていかなければならないと実感しました。

●大人から「好きなことを職業にするのが良い」とよく言われていたが、「好きなことを職業にする」ではなく、「職業を好きになる」ことが大事だと知った。目前の仕事をしっかりこなしていけば、大きな力になると思う。

●将来に不安を持っていましたが、グループ・ディスカッションで自分と同じ夢を持っている人たちと話して、少し自信がつきました。日々、小さなことでも挑戦を続けて、夢を追いかけていきたいです。

●自分の中でものの見方を少し変えてみようと思った。これから社会を担う若者が今のうちからやっておきたいことや、あるべき姿など、本当にたくさんのことを学べた。

教員グループ

●人材育成について、日頃感じていたことが自分だけの考えではないことを知りました。また、どのようなアプローチが有効なのかというヒントが分かり、参考になりました。

●他校の先生方とお話しして、学校によって考え方が異なることを知りました。いろいろな考え方があるのだと、日頃から意識しなければいけないと感じました。

●いろいろな人の話を聞いて、教育現場は遅れているなと感じました。生徒が将来出ていく社会がどのように変化していくのか、少しだが理解することができました。

保護者グループ

●子どもに「将来の夢は？」と聞いても、「ない」「分からない」と答えるのだが、その設定の方法を知らないからだと感じた。身近なところから一緒に目標を考えていけたらいいと思う。

●親だから子どもを心配することはあるが、親の方が変わらなければならないこともあると気付かされた。

●とても学びになりました。子どもたちの未知の力を信じて、愛情いっぱいに見守っていきたいと思います。

（役職は開催時）

生徒グループ

林 礼子
メリルリンチ日本証券
取締役副会長

日色 保
ジョンソン・エンド・ジョンソン
取締役社長

日高 信彦
ガートナー ジャパン
取締役社長

日比谷 武
富士ゼロックス
顧問

松島 訓弘
電通
顧問

森田 均
マニュライフ生命保険
代表執行役

教員グループ

島田 俊夫
CAC Holdings
取締役会長

成川 哲夫
日本曹達
取締役

林 恭子
グロービス
マネジング・ディレクター

保護者グループ

齋藤 勝己
東京個別指導学院
取締役社長